杭州 2022 アジアパラ競技大会　日本代表選手派遣報告

日本パラリンピック委員会

1 大会名称　杭州 2022 アジアパラ競技大会
Hangzhou2022 Asian Para Games

2 大会期間　令和5年 10 月 22 日(日)～10 月 28 日(土)(7 日間)

3 開 催地　中華人民共和国・杭州市

4 運営主体　アジアパラリンピック委員会(APC)
杭州 2022 アジアパラ競技大会組織委員会(HAPGOC)

5 参加規模　44 か国・地域　選手 3,100 名

6 実施競技　22 競技

No	競技	No	競技
1	アーチェリー	12	ローンボウルズ
2	陸上競技	13	パワーリフティング
3	バドミントン	14	ローイング
4	ボッチャ	15	射撃
5	カヌー	16	シッティングバレーボール
6	チェス	17	水泳
7	自転車	18	卓球
8	ブラインドフットボール	19	テコンドー
9	ゴールボール	20	車いすバスケットボール
10	囲碁	21	車いすフェンシング
11	柔道	22	車いすテニス

- 日本はチェス、囲碁以外の 20 競技に参加
- カヌー、ブラインドフットボール、テコンドーは大会初採用競技

7 日本代表選手団編成

スポーツ庁「持続可能な国際競技力向上プラン」の方針を踏まえ、2024年はもとより、2028年のパラリンピック大会での活躍が期待できる選手を選考対象に含めた。その結果、ベテラン、若手、トップ、次世代等がバランスよく含まれた選手団編成になった。

430 名(選手 259 名　競技パートナー8 名　競技スタッフ 136 名　本部スタッフ 27 名)

団　長:井田　朋宏
副団長(競技):三井　利仁
副団長(総務):與品　美由紀
主　将:岩渕　幸洋(卓球)
旗　手:波田　みか(シッティングバレーボール女子)
※閉会式:木下あいら(知的水泳女子　金メダル 3 個、銀メダル 2 個獲得)
※J スタープロジェクト修了生

◇日本代表選手団編成内容

競技	選手			競技P			スタッフ			競技別	本部スタッフ		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	参加数	男	女	計
AR	4	1	5	0	0	0	3	1	4	9			
AT-PH	25	10	35	1	0	1	10	5	15	51			
AT-ID	2	8	10	0	0	0	2	3	5	15			
BA	7	8	15	0	0	0	6	2	8	23			
BO	4	5	9	2	2	4	4	4	8	21			
CA	4	4	8	0	0	0	2	1	3	11			
CY	2	1	3	0	0	0	2	1	3	6			
BF	8	0	8	2	0	2	6	2	8	18			
GBm	6	0	6	0	0	0	1	2	3	9			
GBw	0	6	6	0	0	0	1	3	4	10			
JU	5	7	12	0	0	0	4	2	6	18			
LB	1	1	2	0	0	0	2	0	2	4			
PO	7	1	8	0	0	0	3	0	3	11			
RO	3	3	6	1	0	1	4	0	4	11			
SH	2	2	4	0	0	0	1	1	2	6			
SVm	8	0	8	0	0	0	4	0	4	12			
SVw	0	11	11	0	0	0	4	1	5	16			
SW-PH	18	11	29	0	0	0	8	5	13	42			
SW-ID	8	6	14	0	0	0	5	3	8	22			
TT-PH	11	2	13	0	0	0	2	2	4	17			
TT-ID	3	3	6	0	0	0	3	1	4	10			
TK	4	0	4	0	0	0	3	0	3	7			
WBm	12	0	12	0	0	0	3	3	6	18			
WBw	0	12	12	0	0	0	3	3	6	18			
WF	4	1	5	0	0	0	2	0	2	7			
WT	5	3	8	0	0	0	2	1	3	11			
計	153	106	259	0	2	8	2	46	136				
団長											1		1
副団長											1	1	2
NPCアタッシェ												1	1
医師											2	1	3
看護師												3	3
トレーナー											2	1	3
総務											4	4	8
総務(輸送)											4	0	4
広報											1	1	2
計											15	12	27

◇年齢構成

- 平均年齢 31.2 歳(中央値 男女とも 29 歳)　※最年少 15 歳　最年長 73 歳
- 選手全体の半数が 20 歳代以下
- J スタープロジェクト出身者　6 競技 18 名(平均年齢 20.6 歳　中央値　19 歳)
- 東京パラリンピック出場者　49%

◇障がい別参加状況　(n=259)

	男子	女子	全体	%
肢体不自由	119	72	191	73.7%
視覚障がい	21	17	38	14.7%
知的障がい	13	17	30	11.6%

8 成績

金メダル 42 個 銀メダル 49 個 銅メダル 59 個 計 150 個

(1)競技別メダル獲得数

No	競技	メダル数			
		金	銀	銅	計
1	アーチェリー		1	1	2
2	陸上競技(身体)	5	9	12	26
	陸上競技(知的)	4	3	1	8
3	バドミントン	2	1	2	5
4	ブラインドフットボール				0
5	ボッチャ			1	1
6	カヌー		1	2	3
7	自転車競技	3	1	5	9
8	ゴールボール女子		1		1
	ゴールボール男子		1		1
9	柔道	1	2	1	4
10	パワーリフティング				0
11	ローイング			1	1
12	射撃			1	1
13	水泳(身体)	11	16	14	41
	水泳(知的)	8	2	5	15
14	テコンドー		1	1	2
15	卓球(身体)	1	5	5	11
	卓球(知的)	1	2	2	5
16	シッティングバレーボール女子			1	1
	シッティングバレーボール男子				0
17	車いすバスケットボール女子		1		1
	車いすバスケットボール男子	1			1
18	車いすフェンシング			2	2
19	車いすテニス	5	2	2	9
20	ローンボウルズ				0
	合計	42	49	59	150

- 参加 20 競技中 18 競技でメダル獲得
- メダリストの半数が20歳代以下で、さらにJスタープロジェクト出身者18名のうち10名が金メダルを含むメダルを獲得するなど、次世代選手の活躍が光る結果となった。
- パリパラリンピックの代表権がかかった卓球、射撃、車いすテニスでは、卓球と射撃それぞれ 2 枠ずつ獲得し、車いすテニスでは 2 名がダイレクトスロットとして代表権を獲得した。

（2）国別メダル獲得順位

杭州2022

順位	NPC	金	銀	銅	計	順位
1	中国	214	167	140	521	1
2	イラン	44	46	41	131	3
3	日本	42	49	59	150	2
4	韓国	30	33	40	103	6
5	インド	29	31	51	111	4
6	インドネシア	29	30	36	95	7
7	タイ	27	26	55	108	5
8	ウズベキスタン	25	24	30	79	8
9	フィリピン	10	4	5	19	14
10	香港	8	15	24	47	9

ジャカルタ2018

順位	NPC	金	銀	銅	計	順位
1	中国	172	88	59	319	1
2	韓国	53	45	46	144	3
3	イラン	51	42	43	136	4
4	日本	45	70	83	198	2
5	インドネシア	37	47	51	135	5
6	ウズベキスタン	35	24	18	77	8
7	タイ	23	33	50	106	6
8	マレーシア	27	26	25	78	7
9	インド	15	24	33	72	9
10	香港	11	16	21	48	10

（日本）

- 派遣方針をパリ代表権の獲得または次世代選手の成長としメダル目標は設定しなかった
- 金メダル獲得順位３位（前回４位）
  非パラリンピック競技（チェス、碁、ローンボウルズ）を除いた金メダル順位は２位
  ※2 位のイランは日本不参加のチェスで金メダルを４個獲得
- 総メダル獲得順位２位（前回 ２位）

（中国）

- 436名（個人競技369名、団体競技67名）の選手が参加。金メダル214個（個人209個、団体5個）獲得マルチメダルの狙える陸上競技、水泳、卓球等に多くの選手が出場。また、東京大会で引退した選手を動員するなど、ホスト国としてメダル数にこだわった選手編成だった。

（インド）

- アーチェリー、陸上競技、バドミントン、カヌー、射撃、ローイングでは日本を上回る金メダル数を獲得するなど、めざましい成長をみせており、インドの強化体制等について情報収集していく必要性がある。

9 オールジャパンによる日本代表サポート体制

（1）JSC 様による医・科学・情報支援（村内サポート、オンラインサポート）

- メディカル、コンディショニング、ケア、栄養、心理、MPA 選手の成績等

（2）JOC 様との日常的なコミュニケーションを通じた情報共有

（3）JPC オフィシャルスポンサー（味の素）様からの補食等の提供（選手団宿泊棟内）